

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム アミーチ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300100		
法人名	社会福祉法人共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	〒028-6721岩手県二戸市似鳥字上平15-1-2		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念でもある「ひとりひとりの思いを大切に」を利用者様、ご家族様、職員間で共有できるよう日々努力を重ねている。  
毎月、四季折々の行事、外出、散歩等を通し心身共に健康で穏やかに過ごしていただけるよう支援している。  
利用者の平均介護度も軽度でリクリエーション等の活動機会が多くある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人が運営する特別養護老人ホームとともにあって、二戸市西部の緑に囲まれた丘陵に立地し、開設から20年近く経って地域に馴染んだ事業所として運営されている。利用者は職員と一緒に毎週3回食材の買い出しにいつものスーパーに出かけ、また今年も、コロナ禍のため2年ほど招待がなかった地区の小学校から運動会の招待状が届き、利用者全員で参加し、地元の盆踊り「ナニヤドヤラ」を小学生と一緒に楽しむことが出来ている。ハザードマップで土砂災害対象地域とされているため、特養ホームとの合同訓練に加え、火災や地震に備えて毎月避難訓練を実施し、職員、利用者共に実践を重ねながらスムーズな避難が身につく様に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議時には、職員間で共有し再確認をした上で、日々念頭に置きながら支援している。	事業所独自の理念「一人一人の思いを大切に」は開設当初からのものである。月1回のアミーチ会議の資料の中に掲載し、全職員で唱和をしながら共有し確認し合っている。	理念が持つ意味を職員間で共有して日常のケアに当たられるよう、具体的支援目標を立て、職員での話し合いを通じ、理念を活かしたケアを実践していくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が少し緩和され、今年の春には地元小学校の運動会に参加した。理美容は、定期的に地域の美容院に依頼し訪問してもらっている。	コロナ禍で地元の小学校との交流の機会を持てずにいたが、今年は運動会の招待状が届き、利用者全員で参加し、ナニヤドヤラと一緒に踊ることができた。時々地元の方から野菜の差し入れがあったり、事業所で制作した雑巾を小学校に寄付したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との交流は控えていた為行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には、現状報告や事故報告などを行ない、ご意見等をいただき、結果を会議で報告している。	今年度は2か月に1回対面での運営推進会議を開催し委員として利用者家族も出席している。事業所の状況、利用者の様子、リスクマネジメントに関する報告を行っている。委員からは、意見や要望等が多く話され、それらを参考にしながら、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて委員である市職員へ現状報告等を行い、意見をいただいている。	市の担当者が運営推進会議委員であるため、情報や助言を頂く機会もあり、介護認定や保険に関する相談がある時や、事故報告の際には直接伺うなど、関係性は出来上がっている。また市主催のケア会議には極力出席しており、出席出来ない時には資料を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の定期的な研修の他、3か月毎の適正化委員会を開催している。スピーチロックに対しては特に注意を払うようにしている。夜間のみ防犯上施錠している。	3か月に1回、適正化委員会を開催し、全職員が参加することで共有が出来ている。管理者を中心にアミーチ会議の中で話し合い、スピーチロックを含め、拘束をしないケアに努めている。不適切な言葉遣いが聞かれた時には、注意を促し、気づかせるよう指導している。玄関の施錠は、防犯の為、夜だけ実施している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の定期的な研修の他、適正化委員会の議題としても取り上げ意識付けを行なっている。利用者の身体にできた説明のつかない青あざ等は必ず記録に残し、職員間で確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設ける事はできなかったが、必要に応じて学び、支援ができるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には丁寧な説明を心掛け、理解・納得してもらえよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には毎月広報と、担当職員からのお便りを送付し生活の様子を伝えている。通院や面会等で家族と接する機会を活用し、要望等を聞く機会としている。	通院時や面会時等家族が来所した折に要望や意見等を伺っている。また、毎月の広報「グループホーム アミーチ」と居室担当職員作成の生活の様子のお知らせを発行した際に伺うなどしている。家族からの要望で「一緒に外食したい」「お墓参りをしたい」等の要望を受け、実現出来るよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議に際に意見や要望を伝え、業務改善に活かされている。	日々の業務や、アミーチ会議の中で意見や提案が話され、業務の見直しに活かされている。水道の蛇口交換、食器置き場、利用者のリハビリパンツから布パンツへの移行、利用者が掃除をし易くするため、ほうきと塵取りの置く場所を変える等の改善を行っている。理事長との個人面談を年1回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の際など、意見や要望を伝える機会がある。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は計画的に毎月行なっている。法人外の研修についても希望する職員には参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は無かった。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の声に耳を傾け、話しやすい雰囲気作りに気を配り、良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の声に耳を傾け、話しやすい雰囲気作りに気を配り、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点での必要な支援は何なのか、状態観察を行い出来る支援に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業や活動を行う事で、一人一人の能力や出来ることを把握し、自身を持って過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院対応や季節ごとの衣類の入れ替えなど、折に触れ協力いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が緩和された事により、これまでより面会の機会が増えた。馴染みの店での買い物も感染状況を見ながら行なっている。散髪については、3カ月毎に地元美容師とボランティアの方が来訪し、新たな馴染みの関係になっている。	訪問はほとんどが家族だが、年に1回は友人・知人に年賀状を自筆で書いて送るなどのやりとりが続いている。馴染みの店での買い物の際に、知り合いと会い挨拶をすることもある。3カ月毎に来訪する美容師とボランティアが、ここでの馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルを未然に防げるよう、関係性の把握、会話、行動等の観察を行っている。利用者同士が支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの場合、隣接する特養への入所でサービスが終了となる。その際、必要な情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話を大切にし、利用者の思いを汲み取るよう努めている。	コミュニケーションは利用者全員可能ではあるが、時により難しい状態の場合には、日常の行動や表情から読み取り利用者本位に対応するようにしている。縫物や掃除の好きな利用者には、やりたいと思う事を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、家族や本人から聞き取りを行い情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察で利用者の動きや表情にも目を配り、現状の把握に努めている。情報は申し送りで職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ケアマネが居室担当者の意見も参考にしながら原案を作成し、サービス担当者会議で決定している。モニタリングは居室担当者が中心となって行なっている。	利用者の状況等に変化がない場合には、基本的に6か月ごとの見直しとしている。モニタリングは居室担当者が行い、家族の要望も取り入れながら、職員会議においてその内容等を職員全員で検討している。その結果をもとにケアマネがケアプランの原案を作成し、利用者、家族に説明し同意を得ている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどを個別記録に記入し、申し送りノートも活用しながら情報を共有している。情報は介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方在住の場合は、通院対応や金銭管理など必要に応じて行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店での買い物、定期的に来訪してくれる地元の美容師やボランティアとの会話、郵便局の利用など、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者が大半で、通院は家族が付き添っている。通院時には通院カードを活用し医療機関への報告や相談も行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者全員が、入居前からのかかりつけ医を継続し、通院介助は原則家族が行っている。受診時には事業所でのバイタル等を記載した通院カードを家族に渡し、かかりつけ医に情報を伝えている。受診結果は家族を通じて確認している。家族対応の出来ない方には、職員が同行し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があった時など、隣接の特養看護師に相談し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療機関へ情報提供し、退院時にはカンファレンスに出席し退院後も安心して過ごせるよう支援している。昨年度は入退院の事例は無し。		

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の際に看取りは行っていないと伝えている。重度化した場合は隣接の特養へ住み替えとなるケースがほとんどである。	入居時に重度化や看取りの対応は行っていないことを家族・利用者に説明し、同意を得ている。要介護4と認定された場合や医療面での関わりが多くなってきた場合には、住み替えについて説明し次の施設等への入所手続を行っている。次の生活の場は隣接している特別養護老人ホームがほとんどである。事業所として出来る事を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを定期的に見直したり、救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、様々な想定での避難訓練を実施している。年1回は隣接の特養との合同避難訓練も実施している。	市のハザードマップで土砂災害想定地域になっている事から、年1回隣接する特養との合同訓練を実施している。加えて火災や地震に備えて毎月避難訓練を実施し、職員と利用者共に、スムーズな避難が身につく様に努めている。備蓄は米、レトルト食品など2週間分を蓄えている。	訓練を実践的なものとし、同時に発災時の利用者の安全を考慮した場合、地域との協力体制が不可欠であることから、運営推進会議メンバーの協力を得ることができるよう進めることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いを心掛け利用者の気持ちに寄り添いながらプライバシーにも配慮している。	居室の入口の戸は、換気のため開け放しであるが、プライバシーの確保を考え、暖簾が下げられている。入室の際には、声掛けをしてから入り、丁寧な言葉遣いと、馴れ合いやぞんざいな言葉にならないよう心掛けている。利用者には、「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り選択する場面を設けて、自己決定できるような雰囲気作りや働きかけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先している。入浴は決まった時間での提供だが、出来るだけ本人の希望に添えるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服や季節に合った服装が出来るよう支援している。洗面台にくしやクリームを置いていつでも使えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに役割を持ってもらい食事の準備から片付けまで一緒に行っている。外食メニューも取り入れ盛り付け等を工夫して提供している。手作りおやつも毎月実施している。	献立は当番となった職員が1ヵ月分を立て、給食係のチェックを経て、アミーチ会議に出席する栄養士の助言をもとに作成している。畑で収穫した野菜を使ったり、利用者の要望を取り入れながらのメニューとなっている。誕生会にはその人が食べたい物を提供している。利用者は、食材の買い出しに職員と一緒に出かけたり、野菜の皮むき、刻み、配膳、下膳など、出来る事を積極的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適宜管理栄養士も助言を得ながら、一人一人の状態や好みに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを個別で行っている。定期的な入れ歯洗浄や歯ブラシ、コップの消毒も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握した上で誘導している。	2人の利用者はほぼ自立している。昼夜ともに布パンツの方が3名、紙パンツが6名である、声掛けが必要な利用者には排泄チェック表を参考に時間での声掛けを行い、トイレでの排泄に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、乳製品は毎日一定量飲めるよう支援している。散歩や体操、日常的な家事で体を動かす機会を持つよう意識しながら行っている。適時管理栄養士に相談しながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、火曜日と土曜日の入浴を基本としているが、今年の夏は猛暑のため、木曜日にシャワー浴を実施した。入浴はゆっくりリラックスできるようにしたいが、職員の都合になりがち。	週2回、火、土曜日の午後入浴を基本としている。今年は暑さが厳しく、汗をかき易かったため、木曜日にシャワー入浴を実施し、職員が頭と背中を洗い、清潔の維持に努めている。利用者のほとんどが、異性による介助を嫌がらず、浴槽が大きい事もあり気の合う同士2、3人で入浴している。入浴は、歌を歌うなど、賑やかでゆったり過ごせる場にもなっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や状況に応じて昼寝の時間を設けたり、室温や明るさにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも確認できるようファイルに綴じてある。薬に変更があった場合は説明書に必ず目を通し、申し送りノートでも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業や毎日の家事、季節毎の行事などで参加できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物外出や季節を感じながらのドライブなどで気分転換を図っている。感染対策を講じた上で遠方まで出掛けたり、日光を浴びながらの散歩も出ている。	毎日利用者全員で、施設の周りを散歩したり、外気温を見ながら、畑へ出て野菜の収穫をしている。また買い物外出や、季節に合わせて奥中山のお花畑、二戸まつり、葛巻高原などへドライブし、気分転換を図っている。冬には道の駅へおやつを買いに行くなど、利用者が楽しめるよう外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は概ね職員が行っている。 利用者の管理能力に応じて少額のお金を持っている利用者もいて、施設内の自動販売機で缶コーヒーを購入することを楽しみにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人に毎年年賀状を出していて、家族に喜ばれている。利用者が自ら電話をかけることはないが、電話があった際には取り次いでいる。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレの場所をわかりやすく表示したり、季節に合わせた装飾や行事の写真を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホールは天井が高く、広々と感じられ、天窗からは明るい光が差し込んでいる。庭に面してソファが置かれ、四季の変化を感じられるよう配慮されている。ホール中央にはテーブルが設置され、利用者は自席で、好きなように過ごしてる。職員と利用者が一緒に作成した柿や装飾で季節を感じるようにすると共に、壁面には、行事の写真が掲示され、居心地良く生活出来るよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのある談話室に雑誌を置いたり、和室にテレビを置いたり、好きな場所で自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いたり、家族の写真を飾ったり、好きな本や植物を置いたりしている。また、気付いた時に掃除が出来るよう廊下にほうきとちり取りを置いている。	エアコン設置の部屋が2室、他室は扇風機対応となっている。FFストーブ、ベッド、布団、クローゼット、洗面台が備え付けられ、衣装ケースや家族写真、自身の作った作品を持ち込み、居心地良く過ごせるよう部屋作りをしている。居室入口には利用者が描いた塗り絵が飾られ、目印となっている。廊下には、掃除がし易いようにほうきと塵取りが備え付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にほうきとちり取りを置き、いつでも掃除ができるようにしている。利用者が迷うことが無いよう居室とトイレに貼り紙をしている。		